

20090727

## 2009年7月27日 日本テレビ 定例記者会見

### 《 全文 》

<発表>

細川知正社長：発表事項は2つ、『24時間テレビ』と『それいけ！アンパンマン』についてです。

24時間テレビは今年が32回目で、たまたま総選挙と重なりますが、それを良い方向に活かして行きたいと考えています。テーマは「START!～一歩を踏みだそう～」です。

メインパーソナリティーがNEWSの皆さんで、若い力を借りたいと思います。またチャリティーパーソナリティーが菅野美穂さん、番組パーソナリティーにネプチューンさんとベッキーさん、そして総合司会が徳光和夫さん、西尾由佳理アナウンサーです。

今年はメイン会場が武道館から東京ビッグサイトに変更となります。

恒例の24時間チャリティーマラソンは「世界の果てまでイッテQ！」の「珍獣ハンター」として知られるイモトアヤコさんがフルマラソン3本分にあたる「126.585キロ」に挑みます。また、昨年達成できなかった津軽海峡縦断リレーのリベンジ企画も行います。スペシャルドラマ「にいにのことを忘れないで」では、実話を基に脳腫瘍と闘った若者の姿を放送します。さらに「チャリTシャツ」は、全米最大のアニメーション・スタジオ=ピクサーに依頼し、非常にかわいらしい普段から着易いデザインですので、多くの方にご愛用いただけると期待しています。

『それいけ！アンパンマン』は1988年からずっと放送していますが、単独アニメーションシリーズのキャラクター数が1768体と、世界一としてギネス世界記録認定を受けました。原作者のやなせたかし先生も非常に喜ばれておりまし、局としてもこれまで次々にキャラを生み出していただいた結果と喜んでいます。

7月1日の組織改編についてはご案内済みですが、制作局がドラマとバラエティーの特長を特化させた2つの局に分かれました。また、秘書室が総務局に入りました。

舛方勝宏専務：視聴率はフジテレビの26時間テレビが昨年と同じ平均13.8%で

す。日本テレビは別の意味で 24 時間テレビを展開していきます。昨年は 10 億 8,300 万円の募金を頂き、過去 31 回で 272 億円の募金が集まりました。全国、世界にチャリティーとして皆さまの志をお届けし、大変感謝もされています。今年も 32 回目として力を込めて、新しい気持ちで踏みだそうと、全力で制作してまいります。今回の 24 時間チャリティーマラソンは、「珍獣ハンター」として中高生に人気のイモトアヤコさんが挑戦するため、注目されると思います。24 時間テレビと総選挙の投票が同じ日ですが、午後 8 時に投票締め切り開票、24 時間テレビはあと 1 時間午後 9 時まで放送しますので、L 字画面などで全体の動きを伝えていきます。一つの番組のようにつないでいこうと考えています。

野球のオールスター戦は、先週の金曜日の第 1 戰が視聴率 14.8% でした。土曜日の第 2 戰を中継した TBS が 11.7%、2 ゲームの平均が 12.8% です。昨年の 2 ゲーム平均が 11.4%、第 1 戰のフジテレビ中継が 11.4%、TBS が 11.3% でした。昨年より上がっていて、14% を超えたのは 2004 年以来となります。99 年のオールスターゲームは 27.6%、23.6% と非常に高視聴率で、2000 年までは 20% をとっていましたが、2001 年から 20% を切っていたわけです。久しぶりで 14% を超え、熟年層だけではなく、若い層もオールスターゲームに注目した結果ではないかと思っています。

## 1. 最近の視聴率動向と編成戦略

記者：7 月のドラマ、新番組等の評価、今後の編成戦略についてお尋ねします。

細川社長：今回から編成局長も兼ね、現場への直接指揮もしています舛方専務がお答えします。

舛方専務：全局とも 7 月のドラマは飛び抜けたものないと思います。20% を超えるものが出ていない。やや夏枯れという感じがいたします。日本テレビも「アイシテル～海容～」「ザ・クイズショウ」と 4 月ドラマは健闘しましたが、残念ながら 7 月の水曜ドラマ「赤鼻のセンセイ」は初回 7 月 8 日が 9.4%、次週が 8.9%、先週が 8.2% とやや数字がよくない。内容は決して悪くないので、まだストーリーを理解して頂けていないところもあると感じます。また土曜日の「華麗なるスパイ」第 1 回は 7 月 18 日 15.6%、第 2 回はちょうどフジテレビの 26 時間テレビとぶつかったこともあり、8.3% と急落しました。26 時間テレビが 20.5% の視聴率で、「華麗なるスパイ」は主演の長瀬さんの演技等、子どもたちに受ける内容なので、26 時間テレビに若い層が動いた影響を受けたと思いますが、来週また復活してくると考えています。

編成戦略では、2006 年から視聴者対象を変えながら、若い世代へシフトする策がようやく実ってきたと思います。視聴率はフジテレビに次いで 2 位ですが、内容はかなり改善されてきました。7 月 26 日までの 2009 年度 17 週で、全日視聴率は 8.1%、昨年が 7.9 よりやや上がっています。プライムタイムは 12.3%、昨年 12.1%、全日・プライム・ノンプライムは昨年 6.8% から今年 6.9%。ゴールデンは昨年と同じ 12.0% で 2 位、フジテレビと差はありますが健闘していると見ています。視聴者層を変え、2 年半かかって改善されてきたと言えます。

記者：視聴率競争では 3 位、4 位の順番が TBS とテレビ朝日が逆転していますが、どう見ますか。

舛方専務：TBS はドラマ等でいいものを出そうという方針が見えていますが、視聴率に結びついていない。「官僚たちの夏」もいいドラマですが視聴率 8.0% で数字につながっていません。編成全体的に TBS らしからぬ展開ですが、力のある局ですから、うかうかできないと思っています。

テレビ朝日はスポーツイベント等で 3 位、あるいは 2 位となり、大変成功されていますが、お金も相当使っていらっしゃると思います。

記者：3 位、4 位を気にせず前を意識するということですか。

舛方専務：前しか見ませんが、テレビ朝日は勢いがあると思います。スポーツも相当トライされているし、ゴルフ全英オープンで石川遼君が予選落ちしましたが、決勝まで進んでいたら相当な視聴率だったでしょう。世界水泳は予想より低いと思われ、視聴率が 1 ケタなのでちょっと惜しまれる部分です。ただスポーツ中継を積極的に昨年から顕著にやっていますので、気にはなります。なかなか大胆だと思います。

記者：テレビ朝日は、スポーツだけでなくドラマにも結構力を入れているとのことですですが？

舛方専務：スポーツだけでなく、ドラマも「刑事一代」など力作でした。フジテレビ含め、超大型ドラマを出してくるので、日本テレビも 7 月にドラマ局を立ち上げました。時間はかかりますが、大型ドラマを制作したい、話題性があり、しっかりしたものを放送したいという思いがあります。通常枠の 2 本のドラマだけではなく、単発でも大型ドラマを制作していきたいと思っています。ただドラマはリスクもあり、非常に難しいと考えています。

記者：テレビ朝日では、大型ドラマで日本テレビやよみうりテレビ出身のOBを大作の製作に選んでいますが。

舛方専務：石橋冠さんは日本テレビのドラマ局の中にも弟子が何人もいます。ちょっと惜しいですね。石橋さんは最近も、さらに力を発揮されていい作品をつくっていらっしゃいます。日本テレビは一時ドラマからやや力を抜いた時期があり、失った部分を取り返すためにドラマ作りの土壤を作りたいと考えています。女性層をつかむためにドラマは絶対に必要です。日本テレビ以外の各局はずいぶん大作を制作しているので、対応は考えたい。

## 2. 営業収入と放送外収入

記者：営業状況と放送外収入についてお話しください。

細川社長：まもなく第1四半期の決算が出ますので、数字は勘弁いただきたい。今期4月スタート以降、営業の極めて厳しい状況は変わっていません。特に、今年度に入ってから、タイムの状況は相当厳しいものがあります。それはずっと続いています。

ただ1つ、前向きな話題としては、24時間テレビ「愛は地球を救う」に関して非常に積極的な引き合いを多数いただいている。協賛社に既に6社が決まっています。スペシャルパッケージでも2社が決定しています。

スポットは、残念ながら4月以降ずっと低調ですが、7月に対前年比でようやく90%を超えるました。もっとも8月は90%にはまだ届かないという感じです。4月、5月に比べれば、多少「減る率」が少なくなっているので明るい傾向かという気がしています。

特に7月のスポット状況を見ると、いわゆるコアターゲットの視聴率を高く取るというやり方がようやく具体的にスポンサー側にアピールできる状態になってきたのという実感が持てています。

放送外収入ですが、「ごくせん THE MOVIE」の興業収入がこの週末までほぼ18億円という数字まで上がってきています。私どもとしては、もう少し伸びてほしい、当たってほしいという思いは正直あります。この映画、比較的地方に強いので、今後地方都市に重点的にPRをしていこうという作戦をとっています。

それから、非常に好調だった「ルーブル美術館展」東京展が終わり、今京都で開催しています。非常に好調です。

この第1四半期では、通販も順調です。前年の下半期に売上は上がるも、原価率が上がってしまったと再三言つきましたが、本期は多少歯止めがかかり、オリジナル商品の開発が進み、順調に売り上げています。非常にいい傾向だと考えています。

### 3. 地デジの進捗状況

記者：地デジの完全移行まであと2年ということですが、取り組み状況について。

細川社長：つい先日も地デジまで2年ということで、総務省とDpaとの共同のイベントがありました。地デジ大使への草彅剛さんの復帰、北島三郎さんの「地デジ音頭」に至るまで、みんなで一生懸命やっていこうということです。

この地デジの普及に関してこれから大きな問題になってくると思われるのは、地デジ受像器の普及です。トータルの世帯普及率は既に60%を超えて順調に推移していますが、エリア間の差がかなり大きい。まだ30%台というところがあり、この辺どう取組むのかが大きな問題で、私どもでどういうことができるのかなと今考えています。これは結構難しい。設備を整えて送信をきちんとするというのは、私どもの努力ができるのですが、受像器の問題は、いろいろ難しいと思っています。

また受像器が普及しても、次にアンテナを整備して頂かなければならぬので、アンテナの整備率と受像器の売れ行き、普及率とが必ずしもまだ一致していないという部分があります。今普及に関するうえで、エリア間の差とアンテナの問題、これが今後の最大の課題になるだろうと。私どもにできることと、やはりこれは政府を含めてやっていただきなければいけないところがあると考えています。

記者：先だって民放連会長から、「今年民放連加盟社のうちの約半数が赤字になった。地デジの設備投資負担が一番の原因である」というお話をありました。日本テレビ系列はどうでしょうか。

細川社長：局の数で言いますと比率はほぼそのような感じです。この地デジの投資、すぐにはリターンのないものに対しての投資が、非常に大きな圧迫になっているのは事実です。

同時に、昨年の下半期からの広告の不況が重なっているところに非常につら

い部分があります。これがもう 15、6 年前の右肩上がりの絶好調の時代であれば、吸收できる率ははるかに高かったと考えています。

#### 4. 「バンキシャ」について

記者：「バンキシャ」の問題で、30日にBPOの放送倫理検証委員会の決定が出る予定です。現時点でのご見解をお聞きかせください。

細川社長：30日に発表されるということは、正式にBPOからもご連絡をいただきました。正式にそう言われたわけではありませんが、勧告と見解、2本立てのような形でいただくことになるようです。

いずれにしても、勧告という、非常にある意味重い決定を頂くことになるようですので、これについては本当に真摯に受け止めて対応しなければいけないと考えています。

おそらくこの勧告の中にも出てくるのではないかと予想しておりますけれども、従来皆さまにもお約束しておりますように、審議結果が正式に出た段階で、いわゆる検証番組をきちんと制作し放送したいと考えています。

記者：以前、番組を打ち切るかどうかについて検討されているようなお話をあったと思いますが、今の時点で番組をどのようにされるかというのは決まっているのでしょうか。

細川社長：従来から私どもはこの番組を打ち切るという対応は基本的に考えていません。ただ、BPOの決定内容を検討した上で最終的に判断しますが、現在私どもが知り得ている範囲においては、番組の打ち切りで対応するという必要はないのではないかというふうに判断しています。

<その他>

記者：今回の総選挙はかなり注目されると思います。当日の開票特番について、これまでと何か違うところがあったら教えてください。

細川社長：今回の選挙は非常に多くの関心を集めており、従来にも増して報道機関として大切に扱わなければいけないものであるということは、当然認識し

ています。

舛方専務：量という点では、まだはっきり申し上げられないのですが、もちろん21時から選挙特番につないでいくということ、それが2時間に及ぶのか、3時間に及ぶのかというところは、最後の詰めをしているところです。

記者：選挙当日以前は、動きはありますか。

舛方専務：いわゆる選挙に関する特番は、当然組むつもりでおります。いつ、何時ということはまだ決まっていません。

記者：前回の4年前の選挙と比べて、見通しとして増えそうですか。

舛方専務：これは「バンキシャ」や、あるいは「リアルタイム」等、通常のニュース番組枠の中で、特集として放送するということで、その他に特別に大きなものを組むことは、現在検討はしていますが、まだ具体的には申し上げられない段階です。

記者：偶然「24時間テレビ」と総選挙が重なってしまい、プラスマイナスいろいろな影響があると思いますが、どう対応するのでしょうか？

細川社長：以前、バッティングしたらちょっと困るな、ということを申し上げていましたが、確かにいろいろな意味でやりにくい部分がないわけではないですが、決まった以上、逆に前向きにそれをいい方向へ転化するようにやっていかなければいけないと、考えています。

舛方専務：ぶつかってほしくないと思っていたのは間違いないですが、そこは気持ちを切り替えるしかないので、通常ですと20時から選挙特番をスタートさせるのですが、「24時間テレビ」も年に一度の大きなチャリティー番組として、ある意味では国民的行事だと私どもは考えていますので、1時間の時差がありますが、そこはL字画面や、報道のスタジオと特番のスタジオの掛け合いなどの方法で対応していこうと考えております。20時から重々しくやるのが選挙だというとらえ方をすると、少し「24時間テレビ」とは違うかもしれません、ある程度相乗効果も出て、若い人たちにも選挙に関心を持ってもらえるのではないかと思います。実際、ネットワーク局等は、選挙事務所の対応と「24時間テレビ」の対応とがバッティングするのは、大変辛いものです。具体的に言え

ば、中継車がたくさんあるわけではありませんので、物理的に苦しいところもあり、皆さん、ぶつからないように祈るようにしていたのですが、祈りは通じなかつたわけであり、そうなつたらそう対応していこうということです。

記者：「24時間テレビ」のサブテーマとして、例えば選挙は日本を救う、というのはいかがでしょうか？テーマが「START！～一歩を踏みだそう」というのは、民主党が喜びそうな気もしますね。

細川社長：テーマのキャッチコピーは私どものほうがずっと早く決めていて、選挙は後から決まったわけです。いずれにしても、よりその日に関心を高めて頂けていることは、確かですので、いい形で放送できることが本当に望ましいです。実はスケールは違いますけれど、私どもも全くこういうことを経験したことがないわけではなく、当時、20%は必ず超えていたナイター中継と選挙がバッティングしたこともあります。ナイターと「24時間テレビ」の混合体をやったこともありますので、いろいろな形で放送できる方法はあると思っています。一番大変なのは、ネットワーク局の技術陣ですね。これはかなりお気の毒だと思いますが、がんばっていただくしかないと思っています。

記者：先日、BPOがバラエティ一番組に関しても審議をすると発表しました。これについてどう考えていますか。

細川社長：ご議論頂くということは承っております。具体的にどういうご指摘があるのか、まだ伺っていないので何とも申し上げられませんが、いずれにしても、私どもも何度もバラエティーに関してBPOとのお話し合いをしたこともありますので、従来ご指摘のあった点については、十分に具体的に反映させていくと思っています。今回もちろん何らかのご指摘があれば、それに丁寧に対応していきたいと考えていますし、もちろんそういう何らかのご決定、あるいはご指摘があれば、真摯に対応していこうということです。

記者：審議をするということは、つまり意見を出せるということだと思いますが、そもそも放送倫理がバラエティーの内容に立ち入っていいのかという様々な考え方があると思いますが、一般論としてその点についてどう思いますか。

細川社長：具体的に何を指すかにもよりますが、もちろんバラエティーと、極端に言えばストレートニュースとは違いますね。当然演出の幅の問題がありますし、またバラエティーといっても、一体どんな時間に、どんな形での放送を

するのかによっても違うと思います。ですから一般論では非常にお答えしにくいですが、バラエティーといつても一定の倫理の範囲があるはずであり、一方、何でも杓子定規にしてしまえば、ほとんど娯楽として成り立たなくなってしまうので、その辺りはやはりバランス感覚の問題だと思っています。  
BP0というのはもともと私どもが作った組織ですので、いずれにしてもここから何らかのご指摘があれば、丁寧に対応しなければいけないと考えております。

記者：「バンキシャ」の検証番組の、放送時間帯など教えてください。

細川社長：まだBP0の正式な勧告なり見解なりを頂いていないので、それを頂いた上で最終的にいろんな判断をしなければいけませんので、確定しているわけではございませんが、少なくとも全国ネットでの放送をいたします。また前回の会見の際に番組審議会の半田委員長のほうから「バンキシャ」そのものでもきちんと触れなさいというご発言もありましたので、その辺りも十分配慮しながら、最終的に放送枠を決めたいと考えております。

記者：「バンキシャ」問題が起こった後、組織を見直したり、いろいろ対応されていると思いますが、何か効果が出たか、どのように見ていらっしゃるかをお聞かせください。

細川社長：これはご存じのとおりの「バンキシャ」の体制、あるいは報道局内の組織を見直しているわけですが、それによって顕著に何かが出てきたとすれば、余程前やっていたことがおかしかったという話になります。あくまでも通常問題が起こらない状態をさらにダブルチェックする形です。したがって、具体的に新しく効果が出たということはないと思います。どのようにみるか、というのは評価を問われていると思いますが、「バンキシャ」という番組について、皆様がその後ずっとご覧になって、どういう評価をして頂けるのか。それがある意味で組織を含めた対応に対する評価だと思います。ですから、評価そのものは私どもがするというより、皆様にして頂くことだと思っています。